

## 第8回補足

### 円筒座標系の公式

デカルト座標の単位ベクトルは位置ベクトル $\vec{r}$ の成分とは無関係なので、時間微分は常に消える：

$$\frac{d\vec{e}_x}{dt} = \vec{0}, \quad \frac{d\vec{e}_y}{dt} = \vec{0}, \quad \frac{d\vec{e}_z}{dt} = \vec{0}$$

円筒座標では、単位ベクトル $\vec{e}_r$ と $\vec{e}_\theta$ の方向は位置座標 $\theta$ に依存する。よって、位置ベクトルが時間とともに変化する場合 ( $\theta(t)$ )、単位ベクトルの時間微分は

$$\begin{aligned} \frac{d\vec{e}_r}{dt} &= \frac{d(\cos\theta\vec{e}_x)}{dt} + \frac{d(\sin\theta\vec{e}_y)}{dt} \\ &= \frac{d\cos\theta}{dt}\vec{e}_x + \frac{d\sin\theta}{dt}\vec{e}_y \\ &= -\sin\theta\frac{d\theta}{dt}\vec{e}_x + \cos\theta\frac{d\theta}{dt}\vec{e}_y \\ &= \frac{d\theta}{dt}(-\sin\theta\vec{e}_x + \cos\theta\vec{e}_y) \\ &= \frac{d\theta}{dt}\vec{e}_\theta \end{aligned}$$

ベクトル $\vec{e}_r \times \vec{e}_z$ は、成分表示を用いて具体的に計算すると

$$\begin{aligned} \vec{e}_r \times \vec{e}_z &= (\cos\theta\vec{e}_x + \sin\theta\vec{e}_y) \times \vec{e}_z \\ &= \cos\theta\vec{e}_x \times \vec{e}_z + \sin\theta\vec{e}_y \times \vec{e}_z \\ &= \cos\theta(-\vec{e}_y) + \sin\theta\vec{e}_x \\ &= -(-\sin\theta\vec{e}_x + \cos\theta\vec{e}_y) \\ &= -\vec{e}_\theta \end{aligned}$$

となる。この結果は以下のように考えても理解できる。 $\vec{e}_r \times \vec{e}_z$ は $\vec{e}_r$ にも $\vec{e}_z$ にも直交するベクトルなので、 $\vec{e}_\theta$ に比例する。また、 $\vec{e}_r$ と $\vec{e}_z$ が直交しており、それぞれ長さ1の単位ベクトルであることから、 $\vec{e}_r \times \vec{e}_z$ の長さも1になっており、 $+\vec{e}_\theta$ または $-\vec{e}_\theta$ の可能性がある。符号は図から右ねじの法則 ( $\vec{e}_r$ から $\vec{e}_z$ への回転で右ねじが進む方向が外積ベクトルの方向) で考えるとマイナスとわかる。

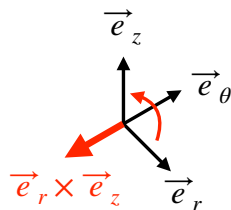


図 5:  $\vec{e}_r \times \vec{e}_z$  の模式図。